

意見交換②これからの持続可能な明石の「農業」に向けて・・・必要な取り組みや施策、重要だと思うポイントは？

《農地の環境整備》

- 農地・農道・インフラの整備
 - ・農地農道の整備 (軽トラ・トラクターなどが入れないところを整備)
 - ・農道の整備、確保
 - ・道せまい
 - ・インフラの整備(用水など)
- その他
 - ・害獣対策
 - ・現状に見合う農地法の見直し
 - ・農地拡大 農地ナビ 公害口書 市民の教育

《農地を運用・活用しやすい仕組み》

- 農地管理の強化・仕組み化
 - ・農地の中間管理の仕組み(県はある)
 - ・農地バンク→農地の集積と再配分、遊休農地解消
 - ・農地圃場管理の効率化
 - ・ほ場整備
- 農地を貸し借りしやすく
 - ・農地の貸し借りを円滑に
 - ・農地の貸し借り
 - 貸し手と借り手をうまくマッチングできる仕組みを整備
 - ・借地の条件の見直し

《農業者の所得・収益の向上》

- 所得・収益の向上
 - ・農家さんが生活していける保障
 - ・農業者の所得向上
 - ・農業だけで生活できるように所得確保策を考える
- 収益性の高い農業経営
 - ・儲かる農業のための施策
 - 大規模経営(お米は可能)25Ha/1経営体
 - 農家への所得保障
 - ・野菜<米 作りやすい
- 補助金や税制優遇による支援
 - ・補助金をもっと充実(機械購入など)
 - ・税金を農家へもって投入 税金を農家へ
 - ・農地(土地代)の優遇 酪農家を守る
 - ・農業優遇政策の推進 補助金優遇税制

《若年層・後継者の育成》

- 農業の体験・教育機会の充実化
 - ・子どもが地域の農業にふれる機会の確保
 - ・農に触れる機会の提供(マッチングや技術共有、子ども・高齢者・農業)
 - ・若い人に気軽に体験してもらう
 - ・農業に興味を持ってもらう取り組み(特に、若者層、子ども)
 - ・子どもたちは実際にお米つくり、野菜つくりしないと分からなくなる
 - ・農家は日本の国宝という教育に！明石は農業に最高！
 - ・市の職員、市民も農業してください。

- 人材育成・新規就農の支援
 - ・農業者の高齢化 後継者が少ない
 - ・就農支援 就農支援のPR・充実化
 - ・担い手に強制的集約(した農地)を提供する
 - ・教育×農業(子どもたちへの食育もかねた農業への関わり)
 - ・主導する若手が必要 若手農家の育成
 - ・農業が身につけられる場所があれば良い(農業研修農場)
 - ・農家は日本の国宝という教育に！

- その他
 - ・教育の視点から農業の価値向上
 - ・魅力ある農業を目指す 農業の雇用を増やす
 - ・農家の機械・人材シェアシステム。労働で支払い→人材不足の解消
 - ・持続可能な1次産業としての明石を目指す

《環境に配慮した農業の推進》

- 有機農業の推進
 - ・市内の公共食(学校、こども食堂、市役所、病院等)の完全有機化土から海への意識
 - ・菌ちゃん農法を取り入れてほしい(無農薬&量産できる)
- 水源や海への環境保全
 - ・森無くして人住めない。森も守り、飲める水、水源も全員で守ろう(ソーラーパネルも絶対に貼らないで)
 - ・海にも栄養が届く豊かな農業で(農法)1次産業の明石へ
- 農業資源の循環
 - ・農業廃棄物の堆肥化 農業資源の循環利用

《地産地消の強化》

- 新たな販路の開拓
 - ・直売所を増やす 駅前で直売(朝・夕)
 - ・毎日マルシェを駅前に設置
 - ・道の駅のイメージで農産物を販売(レストランやカフェの設置)
 - ・小売店で明石産野菜の割合を拡大
 - ・売り先、明石市で販売ネット
- 既存の直売所の利用促進を工夫
 - ・直売所マップをつくる→マップ、ポスターを貼る
 - ・直売所の価格設定問題だ！
 - ・直売所の値付けの仕組みを考える
 - ・直売所の売り上げUPの仕組み

- 教育・医療と連携した地産地消や食育
 - ・食育 地産地消→学校給食へ
 - ・学校給食の無償化よりも地元産食材の活用
 - ・給食×農家×食育(例:総合学習、学校農園など)
 - ・安心×安全→元気×健康→医療費削減
 - ・給食に取り入れるルール・規定をゆるく(農家の想いを反映)

《地産品のブランド化とPRの強化》

- 新たな特産品の開発
 - ・東播磨の名産をつくる(ブランディングで高価値に)
 - ・特産物(ブランド)をつくる(例:いちご、いちじく、スイートコーン、プロッコリー)
- 明石の農作物のブランド化
 - ・明石の農作物ブランドの宣伝
 - ・農作物のブランド化！..清水いちご有名
 - ・SNSで「明石産」のブランドアピール
 - ・「明石」の野菜のアピール(県内・県外)
 - ・ふるさと納税の返礼品に明石産野菜を取り入れる←花美人
 - ・明石の野菜を食べようキャンペーン

《農業者と消費者の結びつきを強める》

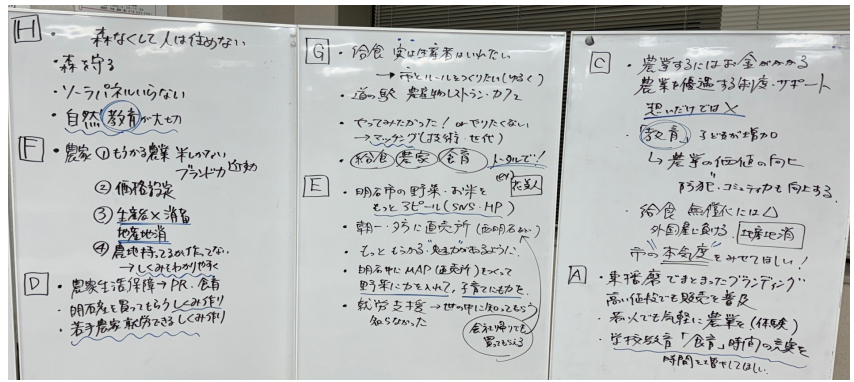
- 農業者と消費者の交流・情報共有
 - ・農業体験など農家と消費者の交流
 - ・情報共有の場の提供(農をしたい人、売りたい人のマッチング)
 - ・市街地との交流不足
- 農業者と消費者の連携
 - ・農業者と消費者との結びつきを深める
 - ・農業者と消費者とのグループ化
 - ・生産者と消費者の連携
 - ・土～食卓まで一貫してふれる仕組み(例:収穫体験して購入する)
 - ・PRが下手な農家さん×PR上手な人と一緒に

《行政と市民の積極的な関わり》

- ・市の職員や市民も農業をしてください
- ・市民全員が知り、市民全員が解決しよう
- ・市として農業を振興しようとする本気度
- ・目標を設定し、その実現率を公表する
- ・パブコメ web苦手な人やらないですよ。パブコメ自体もう一度考え直してください。
- ・農業者が県や国の支援策を利用しやすくするための情報共有→そのための相談窓口が重要

《その他》

- ・価値を知ってもらう 自分でやってみる
- ・明石は今後子育て、教育の街になりますよ！
- ・明石川の左岸に住んでいるのですが、河口の左、右岸には兵庫県を代表する明石浦林崎漁協のりを作っている関係上、「かいまり」に関心があります。明石は陸の農業、海の漁業が一体化しているので。天下の三大米①龍野②明石③？
- ・そもそも明石の農業の生産性の低さ、食料安全保障の危機を知らないことが一番の問題なので。



グループの発表をまとめた板書

意見交換①明石の「農業」について・・・気になっていること、課題だと思うこと、残念なところ

《農地の減少・宅地化》

■農地の減少との確保

- ・農地が減っている
- ・農地面積の確保が困難
- ・農地をどのように確保するのか
- ・大久保付近のJR沿い田畑は多いけど…
- ・人口増加で農地が減っていること
- ・消費地であるが、産地が減少(キャベツ、ブロッコリー)

■農地の宅地化

- ・農地から住宅地になるところが多い。魚住～大久保の農地はどうなる？
- ・(農地)宅地化が進んでいる
- ・宅地開発のある程度の制限
- ・都市化による農地面積の減少
- ・家が多い
- ・農業地域から市街化地域への移行。地目変更の規制はあるのだろうか？
- ・農地が宅地になっていく

《耕作放棄・遊休地、農地の維持管理》

■耕作放棄地の増加

- ・耕作放棄地が増えていること
- ・耕作放棄地が多い
- ・放置されている
- ・あそんでいる農地が多い放棄地増

■その他

- ・調整区域の新たな活用方法
- ・区画整理
- ・土地代の高騰
- ・ため池が減っている
- ・ため池臭う？

《農業従事者の減少と高齢化》

■農業従事者の減少と担い手不足

- ・耕作者が少なくなっている
- ・従事者の減少
- ・農業者の減少
- ・作り手が少なくなっている
- ・農業の担い手いない？
- ・担い手不足、後継者不足
- ・農家さんの人口減少、高齢化
- ・ため池、水路など農業設備の管理ができなくなっている
- ・水の管理(田んぼ)高齢化
- ・高齢化、後継者不足、小規模農家の経営

■農業従事者の高齢化

- ・農家の高齢化
- ・高齢化による後継者不足
- ・後継者不足による休耕地の増加
- ・高齢化、後継者不足、小規模農家の経営
- ・高齢化

■若い農業従事者が少ない

- ・若い世代の農業従事者が少ないこと
- ・高齢化、若者が少ない
- ・人員不足、若者不足

《農業環境の整備・対応》

■気候変動等への不安

- ・今の水利インフラで気候変動に対応できるのか
- ・稲作の時以外、水がない
- ・気候変動
- ・公害、口害問題

■技術的な環境整備

- ・農業環境(市街地の農地)の整備
- ・AIによる設備投資ができない
- ・各田んぼに水のバルブが付いてたらいいのにな。

■農地と宅地が近い

- ・都市農業人口が多い
- ・農地と宅地が近く音や匂いのトラブルが増加

■獣害問題

- ・農地の獣害問題
- ・農地の害獣問題(アライグマ、ヌートリア、キツネ、タヌキ)

《農業経営と収入・収益》

■収入・収益が少ない

- ・収益が少ない
- ・農家の収入が少なすぎる
- ・適切な収入が得られていない
- ・儲からない
- ・生産量の減少

■今後の農業経営について

- ・大規模(集約)農業に向かっていますか？
- ・果物、野菜だけで経営可能ですか？

■その他

- ・労働時間に制限がない

■農業だけで生活できない

- ・農業だけでは生活できない
- ・農業で生活できるか

《新規就農のハードルが高い》

- ・個人、初めて農をするためにはどうしたらいいか情報が得にくい・素人が農業を始めるハードルが高い

- ・素人が農業を始めるハードルが高い
- ・農地の借り方

《特産品のPR不足》

■特産品の情報発信が不足

- ・特産品のPR不足
- ・明石の特産物が分からない
- ・明石の農作物が流通しているのがわからないのでもっとPR

■市内でも買にくい

- ・明石ブランドをなかなか明石市でも買えない(量が少ない)
- ・産地がない(全国区の野菜)

■特産品が少ない

- ・有名な産品が少ない

《学校給食について》

■食材の地産地消

- ・給食原材料が残念
- ・県外や海外
- ・学校給食の原材料県外国外から
- ・給食を韓国や外国食でなく日本食に
- ・給食に地産地消のものが出されていない

■その他

- ・給食が余っている
- ・学校給食におけるコメの購入価格を引き下げようという動きがある
- ・市の職員が説明で予算がない「しょうがない」と言われたが、明石の子どもたちを飢えさせないために予算を確保してほしい
- ・給食を韓国や外国食でなく日本食に

《農業に関する政策と教育の不足》

■政策が不透明・分からない

- ・農業振興は充実しているか？
- ・市の農業政策が不透明
- 何をしたいか分からない
- ・第1、第2の基本計画はどれくらい実行された？(されていないのでは…)
- ・有機稲作への市側からの呼びかけが皆無では？

■農業に関する教育が不足

- ・農業体験
- ・明石の農業に関する教育の不足
- ・子どもが農家になりたいと言っていない

《有機農業が広がっていない》

- ・有機の幅が広い
- ・農業者全員が有機農業に取り組めない

- ・無農薬野菜が手に入りにくい
- ・有機農家さんが少ない

《その他》

- ・お米20%減は問題なので、お米を増やすため、給食をお米へ。牛乳をお茶へ
- ・商品にするには生産技術を要す
- ・高級な清水のいちごもいいのですが…
- ・農協が東西で分かれてしまっている

- ・平日フルタイムで働いていると直売所に行きたくてもいけない
- ・明石の「農業安全保障の危機」だということを市民はほとんど知らない
- ・量より質にすると医療費が下がる(子どもアトピー、花粉症は食べ物で増える)
- ・神戸市との違い

意見交換①明石の「農業」について…今後期待していること、こうなったらいいなと思うこと

《担い手の育成と農業支援》

■農業に関心持つ人を増やす

- ・農業に興味を持つ人が増えること
- ・農業に興味のある人の発掘
- ・有機農業学習会を市で主催→後継者育成
- ・農に関わる機会を増やしてほしい。子供世代へ。有機、自然農を増やし、明石の食につなげたい。

■市民農園・貸し農園の拡充

- ・貸し農園ができる土地を格安で提供する
- ・市民農園を増やす
- ・借地を希望する人に貸し出す
- ・県立図書館跡に農業体験シェア畑を設置

■子どもの憧れの職業に

- ・子どもの憧れの職業を農家に(農家は日本の国宝との教育と市民の意識改革)
- ・目指せ！子供のなりたい職業ランキング1位農家！
- ・自然に興味を持つ子どもが増えてきている

■就農支援

- ・就農のハードルを下げる工夫
- ・田畑やりたい若者と後継者がいない農家の橋渡し
- ・半農半Xの拡大を実施するためにハードルを下げる

《地産地消と地域連携》

■地産地消の推進

- ・地産地消をもっと進める
- ・地産地消(お米、野菜、いも類)

■販路の拡大

- ・道の駅のような場所でもっと明石の農産物を買入れできれば良い
- ・地域コミュニティと連携した農産物の販売
- ・人の集まりやすい場所での農産物の販売(明石公園など)
- ・農家さんも納入先がある！

■学校給食での活用

- ・学校給食を明石産食材に。和食にする
- ・有機野菜を学校給食に使用する
- ・明石の農家様の食材を小中高の学校給食で使用し、農家様の収入を保障する
- ・学校給食への地元農産物の利用
- ・学校給食に市内産、県産のものを使うと市から補助金が出る仕組み
- ・学校給食をパンからごはんへ
- ・学校給食を明石産食材に。和食にする

《地産品のブランド戦略とPR》

- ・明石の「ネームバリュー」を活かす
- ・交通の利便性を活かした特産品
- ・明石の名産「明石清水いちご」を広める

- ・ブランドの宣伝が少ない。宣伝をすればもっと伸びる。
- ・明石の野菜をアピールしてほしい
- ・ふるさと納税の返礼品に野菜、魚(穴子、たい)、のり

《学校教育と農業の結びつき》

- ・学校で子どもや先生が野菜作りを経験
- ・教育と農業を身近につなげたい

- ・学校給食を通じて地産地消や食の安全に対する意識を高める

《農業が継続できる環境や支援》

■金銭的な支援・補助

- ・農家への補助(土地、人手、機械、収量の変化への対応)

■人的な支援・補助

- ・高齢になっても元気な方が多いので農業ヘルパーを導入する
- ・農業者以外の力を借りて何とかならないか
- ・みんなが参加できる援農

■スマート農業への支援

- ・スマート農業導入への初期投資に対する行政や組合の支援
- ・新しい技術の導入

■その他

- ・機械のシェア
- ・収益が上がること
- ・農業も労働時間を会社のように決めて働きやすくする
- ・とよいのでは
- ・都市近郊農業のあり方

《有機農業と持続可能な農業》

■有機農業の推進

- ・有機農家が増えてほしい
- ・有機米が広がる
- ・有機農業や環境に優しい農法の導入
- ・ヘアリーベッチ米の有機農産物化→ブランド力UP 農家さん収入UP

■農地の保全

- ・農地の維持・継続
- ・農地を売らないでほしい
- ・土から海への意識

- ・地球に優しい農業へ
- ・市内の公共食(学校、子ども食堂、市役所、病院等)の完全有機化土から海への意識

- ・農道確保

《農業に関する施策の拡充》

■新たな農業政策の推進

- ・市の職員の意識改革を進め、災害時にも対応できる農業政策を考える
- ・農業者、消費者、行政と連携ができています
- ・市の税金を食へ
- ・農家様への市の税金投入金を増やす
- ・明石の農業を守るための具体的な政策の推進

■パブリックコメントの実施方法の見直し

- ・パブリックコメントの利便性向上(市民が意見を反映しやすい仕組み)
- ・パブコメ 市民は入力しにくい。わかりにくい。パブコメしても市は聞いてくれない。とみんな思っている。

《その他》

- ・食糧自給率100%越え
- ・興味のある人同士で農園をシェアできる
- ・人口増加による多様なニーズ

- ・6次産業化支援
- ・個性的な農家増える
- ・給食の残食率高い、エネルギー補給のみ
- ・様々な人が関われる場